

マイバッグキャンペーン入賞標語の紹介

県では買い物時のレジ袋削減のため、「熊本県マイバッグキャンペーン」を行いました。このキャンペーンが多くの皆さんに理解されるよう、標語を募集したところ、3,948点の応募があり、熊本県ごみゼロ推進県民大会で受賞者の表彰式を行いました。受賞作品は次のとおりです。



〔ゼロッピー大賞〕

使おうよ！ 地球もにっこり マイバッグ
(人吉市立人吉西小学校6年 山下明夏さん)

〔ゼロッピー賞〕

小学生の部
おでかけに ハンカチティッシュ マイバッグ
(多良木町立黒肥地小学校2年 魚住朋花さん)

中・高生の部
持って行こう エコの心と マイバッグ
(熊本県立水俣高等学校1年 柏木拓海さん)

一般の部
玄関に カバンに 車に マイバッグ
(津奈木町 椎葉あけみさん)



▲表彰式の様子

3,500人の女性パワーで地道に活動 水俣市「ごみ減量女性連絡会議」



環境モデル都市である水俣市は、市民と協働でさまざまな環境対策に取り組んできました。16年前に発足した「ごみ減量女性連絡会議」もその一つで、市内16の女性団体と個人を含む約3,500人が結集し、家庭ごみを減らそうと地道な活動を続けています。

ごみ減量に向けてまず着目したのが、食品トレイとレジ袋でした。地元の大型小売店と話し合いを重ね、平成10年に、生鮮食品65品の「食品トレイ廃止申し合わせ書」を締結（現在は90品目以上）。また、エコバッグを市内全世帯に無料配布し、利用状況調査、事業者とレジ袋有料化への話し合いなども進めてきました。

また、環境にいい店作りを実施する店舗を「エコショップ」に認定する制度を市とともに作り、12店舗を認定。今年度は新たに3店舗を審査します。

発足時からのメンバー沼田悦子さんは「地域の方とコミュニケーションしたり、環境について学んだり、得るものが大きい」と笑顔です。

同会議が発足した平成9年から平成24年までで、水俣市のごみ排出量は9,928t→7,921tに減少。生活に密着した女性の活動によって、市民一人一人の意識が高まり、確実な成果につながっていることがうかがえます。

topics **ランニングコスト・ゼロ！ 生ごみ処理器「キエーロ」**

水俣市では、ごみを限りなく減らす「ゼロ・ウェイスト」に取り組み、円卓会議メンバーを中心に「キエーロ」という生ごみ処理器のモニターを行っています。微生物の力で生ごみが分解され、臭いや虫の心配がなく、維持費もゼロ！「フタ付きなので外に置いても動物に荒らされる心配がない」と使用者の小里アリサさん。生ごみの収集がない山間部を中心に、キエーロによって自家処理が進むことでさらにごみ減量につながると期待されています。



▲土を8区画に分け、順番に3～4日分の生ごみを入れていくことで無理なく分解